

抑制メロンの栽培法について 第2報果の肥大増進効果

志茂正人・石田栄一・米田英世
(鹿児島県農業試験場)

SHIMO, M., ISHIDA, E. and YONEDA, H.
Improvement of the Cultivation Systems of Melon in the Autumn Production.
(2) Effect of Thickening the Fruit.

高温長日から、低温短日に向う条件下での暖地抑制メロンの研究は少い。第1報では品種とは種期について報告した。抑制メロンは糖の蓄積はよいが肥大性が悪い。そこで第2報として、肥大増進効果について栽培管理の面から検討した結果を報告する。

第1試験 葉数確保

試験方法

供試品種：“コサック2号”，試験区：(1)全側枝除去，(2)16節上位側枝1葉，(3)11～15節側枝1葉，(4)16～20節側枝1葉，(5)11～20節側枝1葉，(6) (1)区+側枝1本，(7) 4区+側枝1本，は種：昭和50年8月27日，定植：9月18日，立作り，25節摘心，1株1果。

試験結果

全側枝を除去すると最も肥大が悪くなる。側枝葉を利用することにより果の肥大効果が認められた。利用する節位は、着果節位に近い11～15節の各節位に側枝葉1葉を残すことによって効果が認められる。また、側枝を1本放任することにより肥大効果がみられる。糖度には差はないが、ネットの発達には生長点のある側枝放任区がよく、果形も生長点のない縦長果に比べ球形となる。

第2試験 台木利用

試験方法

供試品種：“コサック2号”，“ふかみどり”，“アイボリー”，供試台木：“バーネット・ヒル・フェボリット”，“健脚”，“早生鴻池壺無”，“キング土佐”，“スーパー新土佐”，“強力新土佐2号”，“新土佐1号”，は種：昭和49年8月26日(穂木)，接木：9月7日，定植：9月20日，その他第1試験と同じ。

試験結果

“コサック2号”では、カボチャ台木の“強力新土佐2号”，“スーパー新土佐”，“キング土佐”を利用すると、

肥大効果が認められた。“ふかみどり”では、台木利用による肥大効果は少いが，“強力新土佐2号”でみられた“アイボリー”は，“ふかみどり”同様台木利用による肥大効果は少いが，“キング土佐”でやや認められた。果形には、各品種とも台木による差はみられないが、肥大効果のみられるカボチャ台木は，“コサック2号”，“ふかみどり”共ネットの盛り上りが弱く、また糖度も自根区に比べてやや低い。

露地抑制(這作り)で，“ふかみどり”，“コサック2号”について検討した結果，“ふかみどり”(台木“キング土佐”)で効果がみられた。

第3試験 土壌水分管理

試験方法

供試品種：“コサック2号”，“ふかみどり”，“アイボリー”，試験区：生育前期(植付期～着果期)中期(着果期～ネット発現期)後期(ネット発現期～収穫期)に少かん水，多かん水を組合せる。は種：昭和49年8月26日，定植：9月17日，その他第1試験と同じ。

試験結果

“コサック2号”は最も肥大効果がみられるが、各品種共、生育中期のかん水効果が最も大きい、糖度は肥大を十分させた場合高くなる。

第4試験 ホルモン剤の利用

“ふかみどり”を供試して検討した結果、人工交配より効果のみられるのは、トマト・トーン5倍、10倍処理であるが、ネットの発達が悪く、ネット型メロンでは問題がある。

結 論

実用的肥大効果として、側枝葉の利用および側枝放任、生育中期の土壌水分管理をPF 1.9～2.0に行う。